

スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム紹介

令和4年度開始～令和8年度終了予定



プラットフォーム名: (令和7年7月時点)
みちのくアカデミア発スタートアップ
共創プラットフォーム(MASP)

参画機関

主幹機関:東北大学 共同機関:弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学、会津大学、東北大学ナレッジキャスト 幹事自治体:仙台市

目指すスタートアップ・エコシステム

東北・新潟の10大学が、大学の研究成果・技術シーズを活用した大学発スタートアップを創出し、地域の産学官金一体となってスタートアップ・エコシステムを形成・発展し、地域外とも連携して、課題先進地域から国内外の課題解決に資する大学発スタートアップの創出を加速していく。

(1) 起業活動支援プログラムの運営

- みちのくGAPファンドの運営により起業活動を支援する。みちのくGAPファンド支援は、令和5年度～令和8年度を予定している(令和4年度は令和3年度補正予算を活用)。
- 申請前のeラーニング、伴走支援としてセミナー・ワークショップ開催や個別相談・メンタリング支援、拠点都市等と連携のDEMO DAYを開催する。
- 令和8年度末までにスタートアップ創出+200社を目標とする。

(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

- EDGE-NEXT参加大学の経験・ネットワーク等を活用して、東北・新潟全域でアントレプレナー教育を実施する。
- 動機付け・意識醸成、コンピテンシーの形成、社会実践の各段階で、参加大学が役割を分担し、可能なものについては、各大学の講座の相互乗り入れや統合・一本化を図り、共通プログラムを実施する。

(3) 起業環境の整備

- 各大学に起業相談窓口を設置し、起業関係の学内規程の共有・整備をすすめる。SCORE 拠点都市環境整備型で整備の東北コンソーシアム試作コーディネートオフィス(TPCO)を運用し、公設試験場や民間企業等と連携する。
- 以上の取組を強力に推進するために、「みちのく大学間起業支援室ネットワーク(MuNES)」を設立・運用する。

(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展

- 東北・新潟の広域プラットフォームを形成し、各主体の役割として、大学はアントレ教育・事業性検証・大学の技術の活用等を、自治体は事業環境整備・ビジコン等イベント開催・実証フィールドの活用等を、金融機関・VCはファイナンス、メンタリング等を、産業界は共同事業化、人材・資金支援等を果たし、エコシステムを形成していく。

活動成果

みちのくGAPファンド採択課題に対して、セミナーや個別相談会、カベウチメンタリングなどの伴走支援を行った。教育については、プラットフォーム共有プログラム(国内・海外)を整備し、大学毎の教育プログラムとの連携、相互乗入を開始した。加えて、持続可能な運営体制強化として、外部評価委員会からのフィードバック、改善活動に基づくPDCAサイクル運営体制を確立した。10大学持ち回りの毎月の対面ミーティングと6つの企画推進部会により課題解決への議論を活性化した。コンピテンシー基盤型教育としてのフレームワークを構築した。起業環境の整備は、各大学相談窓口(担当部署や担当等)、Slackコミュニティを整備、各県の公設試験センター及び民間企業を訪問し試作支援体制を整備した。各大学の起業に向けた規定内容の確認と今後の整備計画を策定し、プロトタイプデザイン教育研修、ソフト関連の研修等を行った。MASPエコシステム構築に向けて、教育、起業環境整備及び仙台市Hub & Spoke 構想によるスタートアップ支援ネットワークの構築を推進した。長岡市 NaDeC Base との連携のよりUC Berkeley 校デザイン思考教育プログラムを教員及び学生へ実施し、地域エコシステム形成発展に向けて幅広く現場課題解決の教育活動を実施した。受講者数は、2023年度約7,000人、2024年度約9,000人と増加している。